

全国学力・学習状況調査(平均正答率) ー第6学年ー

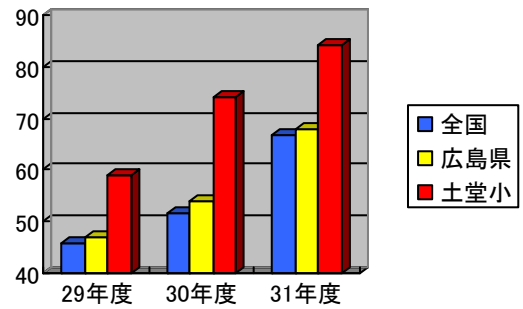
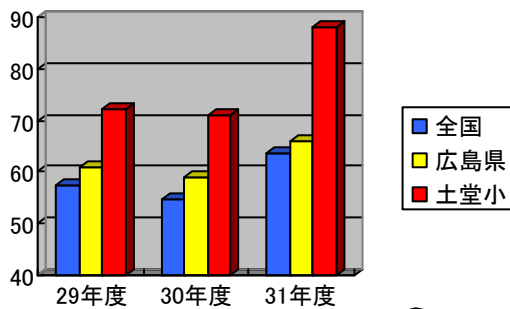
この調査は、全国の6年生の児童を対象として、学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童へ教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てるために実施している調査です。今年度は、国語科と算数科について実施されました。

国語の平均正答率 (%)

	29年度	30年度	31年度
全国	57.5	54.7	63.8
広島県	61.0	59.0	66.0
土堂小	72.0	71.0	88.0
全国との差	+14.5	+16.3	+24.2

算数の平均正答率 (%)

	29年度	30年度	31年度
全国	45.9	51.5	66.6
広島県	47.0	54.0	68.0
土堂小	59.0	74.0	84.0
全国との差	+13.1	+22.5	+17.4



※ 昨年度まで国語 A と国語 B, 算数 A と算数 B に分かれていたため、H29年度と H30 年度の結果は B 問題の結果を載せています。

全国学力・学習状況調査について

全国平均に比べると国語科で 24 ポイント以上、算数科で 17 ポイント以上上回ることができた。「知識」「活用」ともおおむね定着が図られていると捉える。本校の目標（全国平均+12）を達成することができた。

教科	課題	今後の取組
国語	①目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書くこと。	<ul style="list-style-type: none"> 条件をつけたり、説明文での大切な言葉を使ったりして書く練習をする。 テストなど記述問題で文末表現を意識させる。
	②図表やグラフなどを用いた目的を捉えること。何のための図・グラフなのか読み取ること。	<ul style="list-style-type: none"> 国語や、総合的な学習の時間など、資料を使う時、意味を考えながらまとめる活動を仕組む。
	③文の中で漢字を正しく使うこと。	<ul style="list-style-type: none"> 単語のみではなく、文章の中で漢字が正しく使えるように練習する。習った漢字は使うようにする。
算数	①示された減法の計算の仕方についてまとめたことを基に、除法の計算の仕方についてまとめるとどのようになるのかを書くこと。	<ul style="list-style-type: none"> 算数の言葉を用いて自分の考えをまとめたり説明したりする活動を取り入れる。 学習の振り返り等で、友達の考え方を解釈したことを、自分の言葉でまとめる。
	②単位量当たりの大きさを求める除法の式と商の意味理解に課題がある。→ (人数) ÷ (面積) の商が、何を求めているか理解する。	<ul style="list-style-type: none"> 式の意味を理解させるために、図に表して式の意味を説明させる。言葉の式に整理し、求めている商について説明させる。
	③2つの棒グラフから資料の特徴や傾向を読み取り、それらを関連付けて、一人当たりの水の使用量の増減を判断し、判断の理由を言葉や数を用いて記述する。	<ul style="list-style-type: none"> 理由を説明する際に、具体的な数を使ったり、立式を用いたりさせる。